

ながいき農業だより

発行 長生農業事務所 茂原市茂原1102-1・長生農業改良普及事業協議会
 編集 長生農業事務所改良普及課 TEL 0475(22)1771 FAX 0475(25)2061
 URL <http://www.pref.chiba.lg.jp/ap-chousei/>

元氣な長生農業人 その四十

地域や組織との関わりを大切に

元気に農業をやっています！

白子町 細谷啓子さん

今回は白子町でタマネギを主体とした露地野菜を経営する若手女性農業者の細谷啓子さんを紹介いたします。

〈就農の経緯〉

細谷さんは平成二十一年、結婚を機に白子町で就農しました。結婚前には、一年間ニュージーランドで野菜・果樹・酪農などワーキングホリデーを経験しました。そのようなこともあり農業大学校で農業の基礎を学び、農業経営体育成セミナーにも積極的に参加してきました。

〈経営の概要〉

義父と共にタマネギの規模拡大を図りながら、水稻4ha、畑（タマネギ1ha、落花生、ブロッコリー）の経営を行い、地域の中核農家となっています。

タマネギの収穫作業では、ママ友を雇用したり、落花生の掘り取り体験を取り入れるなどアイデアを生かした経営を展開しています。

〈自家経営における役割〉

平成二十九年には家族経営協定を締結し、義父と作業分担をしながらタマネギでは雇用管理、ブロッコリーでは栽培管理全般、落花生やタマネギの収穫体験では責任者を担っています。

〈組織活動〉

地域の若手女性農業者として「ひなたぼっこ」の発足に関わり、アグリライフ長生やちば県女性農業者ネットワーク、JA長生女性部白子支部に加入し、近年では長生産直ひまわり理事等の役職も担っています。また平成二十九年には千葉県農業士にも認証されました。

〈地域活動から得たこと〉

農業者のネットワークが広がり、栽培技術、販売の工夫など経営に役立つ情報収集ができました。

生活改善グループでは、「味噌づくり」や「太巻き寿司づくり」などの体験ができ、組織活動を通じて人のつながりは良い財産になっていると感じています。

〈今後の経営について〉

両親が「変えて良くなるものは変えていこう」という考え方なので、農業経営に関する自分の意見も聞いてもらえ、やる気につながっています。

農機具等の整理整頓をして使い易くし、物を探す無駄な時間をなくし、決まった場所に片付ける習慣を身に着けたいと思います。

これからも

家族や地域の人たちに支えられながら、元気に明るく楽しく農業をやっていきたいと思います。
 (改良普及課)



太巻き寿司講習会で

多世代家族の暮らしは、子育て、家事など家族の理解や協力がありました。農村行事は、驚きと興味にあふれており、次世代に継承したいと思えます。



ママ友とタマネギの収穫作業

「ナガエツルノゲイトウ」の侵入を許すな!

● **ナガエツルノゲイトウとは**

特定外来生物に指定されているナガエツルノゲイトウは、南アメリカ原産のヒユ科の水草です。繁殖期は四月から十月で、冬は地上部が枯死し、地下部が越冬します。栄養繁殖が極めて旺盛で、茎断片から発根・発芽します。

現在陸上にも進出し、印旛沼流域の水田や畦畔に広がっています。長生地区でも、赤目川、南白亀川、一宮川などで小規模ながら発生が確認されています。葉の脇から細くて長い柄を出し、先端に直径一・五cmほどの白い球形の花を着けます。



草姿

● **繁茂すると甚大な被害に**

茎断片から容易に発根・発芽するので、水路に落下すると水系を通じて拡散する恐れがあります。

河川で繁茂すると、堰が詰まる揚水機場の運転に支障をきたすなどの問題が生じ、農業用水にも影響を及ぼします。



畦畔に繁茂した様子

● **防除方法**

畦畔に発生している場合は、水田畦畔で使用可能な非選択性除草剤を雑草生育期に散布します。拡散を防ぐため、茎を切断しないよう刈払い機は使用しないでください。

長生地区では、現時点で畦畔での発生は確認されていませんが、一旦定着するとアツという間に繁茂し、防除が困難になります。早期発見・防除のため、ナガエツルノゲイトウと思われる水草を見かけたなら農業事務所に一報ください。
(改良普及課)

直売所紹介
「産直広場 太陽」
(長柄町山根)

「産直広場 太陽」は、令和二年七月にオープンしました。新しい生活様式が求められ、オープンイベント等の開催が制限される中の船出でした。

隣接する「長生庵」の知名度が伸びていることから、最近では蕎麦を食べに来た人が、広々としたソバ畑を見て「産直広場 太陽」で買い物をしていくといった相乗効果が現れています。コロナ禍ですが、食事、景色、農産物の買い物が楽しめるスポットとして、週末を中心に、近隣市町村などからも多くの方が訪れています。



旬の地元農産物が並ぶ



花盛りの蕎麦畑 (10月)

「産直広場 太陽」を運営する

地元企業では、長柄町の豊かな自然を未来に残すことを目的に、ブルーベリーなどの観光農園やソバを生産する「長生ファーム」、舞茸生産の「きのこランド」、そして、蕎麦屋「ながら長生庵」などをまとめて、「ながら太陽ファーム」として事業を展開しています。グループ内のつながり、地元生産者とのつながりを生かして、「生産く加工く販売」に一体的に取り組む、地元の産物を活用した長柄の名産品を作り上げることが今後の目標です。
(改良普及課)

**ジャンボタニシによる
水稲被害の軽減に向けた
取組について**

ジャンボタニシ（スクミリンゴガイ）は、数十年前から発生し、近年は暖冬の影響などで個体数が増え、移植後の水稲への被害が増加しています。

ジャンボタニシの根絶が困難な状況の中で、水稲への被害を軽減させるためには、年間を通して継続的な対策の実施が必要です。

● 厳寒期の耕耘による防除

ジャンボタニシによる水稲への被害は主に越冬して成長した個体が原因です。そのため、越冬する個体を減らすことが、翌年の被害の抑制につながります。

厳寒期（12月下旬～2月）の耕耘は、寒さに弱いジャンボタニシを土中から掘り出し、低温にさらすことで殺菌することができます。また、耕耘による物理的な殺菌効果もあります。

作業のポイントとして、①より寒い日の直前に実施すること、②ほ場がなるべく乾いている状態で実施すること、③耕深6cm程度にすること、④走行速度を2～4割程度落として、ロータリーの回転数を上げることが重要です。

また、短期間での複数回の耕耘は、掘り起こした貝を土中に戻す可能性があるため、再度耕耘する場合は、1か月程度期間を空けてください。

● 移植後の浅水管理

ジャンボタニシは水温一五℃以上になると摂食活動を開始します。また、水深の浅いところでは活動できないため、食害の危険性がある移植後2～4週間までは水田内の水深を4cm以下に保つ浅水管理を徹底してください。特に大雨後の水管理には注意が必要です。

また、浅水管理の効果を発揮させるためには、水田内を均平な状態にすることが重要です。丁寧な代かきを心掛けましょう。水田内に水深が深い場所がある場合には、集中的な防除剤散布や罫などによる捕獲を行いましょ。

● 防除剤の散布

被害軽減のために、ジャンボタニシに対して食害防止効果や殺菌効果のある防除剤を使用しましょう。

なお、農薬の使用にあたっては、登録のある薬剤で、使用時期や使用量、使用回数などの安全使用基準を厳守してください。

（改良普及課）

主なジャンボタニシ防除剤

商品名	効果
スクミノン	殺菌
ジャンボたにしくん	殺菌
キタジンP粒剤	殺菌
スクミンベイト3	殺菌 食害防止
パダン粒剤4	食害防止

**需要のある
飼料用米の生産で
経営を安定化！**

飼料用米の取組は、助成金など収入のめどが立ち、経営の見通しが立てやすくなります。また米価の維持にもつながります。

飼料用米により収入の増加を狙うには、複数年契約に取り組むことと、収量の増加がポイントです。

多収栽培のポイントや施策、収入試算等の情報は、リーフレットを配布



しているほか、スマートフォン向けページからも発信しています。ぜひご利用ください。

（企画振興課）

**防災重点農業用ため池に係る
防災工事等の推進に関する
特別措置法について**

平成三〇年七月の西日本豪雨で多くのため池が決壊し、甚大な被害が発生したことを受け、国は「防災重点農業用ため池」の選定基準を見直し、千葉県では五八三箇所を防災重点農業用ため池として再選定しました。

全国で約六万四千箇所ある防災重点農業用ため池の補強等を短期間で実施することは困難なため、優先度に応じた対策を推進していく計画や仕組みづくりが必要とのことから、令和二年六月に「防災重点農業用ため池に係る防災工事等の推進に関する特別措置法」が制定されました。

本法律は今後一〇年間で計画的かつ集中的に対策を実施することを目的とし、国が「防災工事等基本指針」を策定し、県は基本指針に基づき「防災工事等推進計画」を策定することとされています。

推進計画の策定に当たり、県は市町村と協議し、決壊した場合の影響度の高さを考慮して優先順位を定め、老朽化等の評価や対策工事を進めていきます。

（指導管理課）

県内の高校初 JGAP取得にチャレンジ!!

茂原樟陽高校では、経営感覚や国際感覚を身に付けて、諸課題に対し主体的にチャレンジする農業の担い手を育成するため、「GAP」の実践と認証取得に取り組んでいます。本年三月に、果樹（なし・ぶどう）で、県内高校初の、「ちばGAP」認証を取得しました。今年度は農学科果樹選択の三年生一〇名でJGAPにチャレンジし認証を受けました。

JGAP認証審査に向けては、計画、実践と記録そして評価・改善のいわゆるPDCAサイクルの確立に取り組まれました。生徒は、JGAPの適合基準に関する評価や改善策とその実践に向けて、専門学習や実習の中で学んでいます。具体的には、農薬や肥料に関する記録の整理、果樹園の品種や本数の確認、各工程でのリスクとその対策、調製施設の使用方法の改善、収穫時や調製における食品汚染のリスク管理、こまめな清掃、あらゆる取組の記録作成など、自覚と責任を



JGAPの審査の様子

持って行いました。GAPの実践に取り組んだ生徒の皆さんの声を紹介します。

果樹園がきれいになり、どこに何が あるのかわかりやすくなった。(森田さん)

みんなの心がけの変化があった。細かい事への配慮の必要性を学んだ。(中村さん)

実習中危険を感じる事が減った。作った果物をおいしく食べてもらえてうれしい。(長谷川さん)

高い品質の商品を提供する上でGAPは必要。取組めてよかった。(片山さん)

育てた果物を安心して届けることの重要さがわかった。(御園生さん)

(多数意見)

- ・多くの項目を理解するのは難しい。
- ・みんなで協力することの大切さを学んだ。
- ・やりがいを感じた。
- ・実習がわかりやすくなった。

農業事務所では、GAPの実践や認証取得についてサポートを行っています。関心のある方は、お気軽にご相談ください。

(企画振興課)

千葉県指導農業士 新規認証者紹介

令和二年度、長生地区では菅谷信弘氏の指導農業士認証が決定しました。認証式典は一月十五日に千葉市内で行われます。



菅谷氏は茂原市で施設野菜、露地野菜、水稲を経営。生協及び直売所で各種野菜を販売し、消費者からも好評を得ています。また、管内農業団体等の役員を歴任、地域農業振興に取り組み、仲間の信頼も厚く、今後も地域のリーダーとして活躍が期待されています。

令和二年度文化の日 千葉県功労者表彰受賞者紹介



秋葉節子氏（茂原市）は、農家起業のパイオニアとして活躍するとともに、女性農業者団体の役員を務め、女性起業家の育成・拡大に尽力された点や、千葉県農山漁村トナーシップ農業の普及に貢献した点などが評価され、千葉県功労者表彰を受賞されました。

(改良普及課)

長生地域農林業功労賞 受賞者紹介

十一月十一日にホテル一宮シーサイド・オーツ力で開催された「長生農業フォーラム2020」において、令和二年度長生地域農林業功労賞の表彰式が行われました。

農林業振興功労賞 一名

○中村 陽氏（茂原市）

苗木生産の品質安定を実現し、苗木の計画生産出荷に取組み全国的にも類を見ない先進的な植木産地体制の確立に寄与されました。

農林業技術功労賞 二名

○近藤 正博氏（一宮町）

イチゴ栽培で病害虫対策に天敵を利用した減農薬省力化に取り組みなど、栽培技術を確立しました。また、六次産業化も進め、地域の中心的な担い手として生産者の模範となっています。

○鶴岡 弘三氏（白子町）

タマネギ栽培で地域に先駆けて機械導入を図り、栽培面積を拡大し安定的な供給体制を整えました。タマネギ栽培の管理技術にも長けており、生産組合の役員としても「白子タマネギ®」の知名度向上に貢献されました。

(改良普及課・企画振興課)